

放課後等デイサービスガイドライン自己評価表

回答率

事業所職員： 3名回答、回答率 100%
保護者様： 38名回答、回答率 86.4%

職員の意見

○環境・体制整備

- ・小集団療育・個別療育どちらもどのような活動をしているか見れるよう全室モニターを設置している。
- ・お子様がより安心して支援を受けられるよう、お子様によって訓練室のスペース、訓練室の位置を調整している。

○業務改善

- ・保護者やお子様から受けた要望や意見を教室内で共有し、業務改善に繋げていけるよう努めている。
- ・業務の振り返りを行う中で、日々業務改善に努めている。

○適切な支援の提供

- ・社内研修や教室内研修を実施している。
- ・支援計画をこまめに確認したり、1人1人のお子様について指導員同士で密に情報交換することを心掛けている。

○関係機関や保護者との連携

- ・相談支援所の方と定期的にモニタリングを行い、お子様の日々の様子を情報交換している。
- ・保護者様の希望に合わせて、事業所内で相談に乗ったり、学校と連携してお子様について情報交換を行っている。

○保護者への説明責任等

- ・電話やメールなど保護者様が連絡しやすい方法で説明を行っている。
- ・長期休みなど教室運営日について教室入り口に掲示をしたり、事前に手紙を配布してお知らせしている。

○非常時等の対応

- ・月1回避難訓練を実施し、避難方法、避難の際の注意点、避難経路などの確認を行っている。

保護者様のご意見

○環境・体制整備

- ・面談の実施環境は適切であるの項目について、8割以上の方に「はい」と回答頂いたが、「面談が訓練室と同じため、相談室を利用できると良い」という意見も頂いたため、今後は相談室も利用できるように検討していきたい。
- ・訓練室のスペースは適切であるの項目について、8割以上の方に「はい」と回答頂いたが、「訓練室が活動内容によっては狭いのではないか」という意見も頂いたため、訓練室内の配置等の見直しを行う。

○適切な支援の提供

- ・様々な指導員が支援に入っているの項目について、6割以上の方に「はい」と回答頂いたが、「固定で指導員が入っているため、色々な指導員に担当して欲しい」という意見も頂いた為、色々な指導員が担当できるように検討していきたい。

○保護者への説明等

- ・丁寧にフィードバックを行っているため、活動内容が分かる。
- ・子育てに関する助言や相談に乗ってもらう時間がないとご意見頂いたため、事業所内相談やフィードバックの時間を活用して行っていけると良い。

○非常時等の対応

- ・感染対策で、手洗いやマスクの着用が対策できており、訓練室の窓を開けることで定期的な換気も行えている。とのご意見を頂いた。

○満足度

- ・指導員が子どもの好きなものに合わせて教材を提供してくれている。
- ・苦手だったことが少しずつ楽しくなり、自信につながっている。等のご意見を頂いた。

昨年度の振り返り

○今年度の取り組む具体策

- ・人数によって訓練室の運動スペースの確保がむずかしくなっているため、教室の見直しを行い、運動スペースの確保ができるように工夫する。
- ・様々な指導員が担当できるように、前回の療育の引き継ぎを綿密に行い、全員が利用者に合わせて支援目標に沿った療育が行える様に療育の質向上に努める。

○改善できた点・まだ残る課題

- ・訓練スペースについて、できる限り活動に適したスペースを確保するように努めていたが、訓練室のスペースについてご意見が多かったため、個別スペースや道具置き場を調整することでより適切な訓練スペースを確保していく。
- ・前回の療育内容について話し合いは行っているが、利用者が1人の指導員に慣れてもらうことを優先したため、様々な指導員が担当できるようにする事については実践することができていない。今後、色々な指導員が担当できるように検討していく必要がある。

アンケート結果からみる教室の強み・改善点

○教室の強み

- ・それぞれのお子様の好きな物などをしっかりと把握しておくことで、より楽しく活動を実施できている。
- ・振り返り時にその日の活動について、丁寧にフィードバックすることができている。
- ・モニターとタブレットを活用することで、小集団と個別など全ての療育の様子や指導員の対応を見る事ができる。

○改善点

- ・全体的に担当指導員が固定化しているため、様々な指導員がローテーションで支援に入れるよう検討していく必要がある。

中長期的な改善計画・1年間で取り組む具体策

○中長期的な改善計画

- ・道具やパーテーションの位置などを調節し、教室環境を整える。
- ・担当指導員の固定化を減らし、ローテーションで支援に入れるようにする。

○1年間で取り組む具体策

- ・道具置き場を整理し、道具置き場の面積を狭めたり、それぞれの部屋のパーテーションを調整することで、どの部屋もそれぞれの活動に見合った活動スペースを確保できるように工夫する。
- ・担当指導員が固定化しないように、話し合いの際に前回の療育の引き継ぎをより綿密に行い、全員が同じように支援を行えるよう努める。